

報 会 うでまくり

一般社団法人
福島県女性経営者プラザ

FJPの魅力は会員一人一人!

一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

会長 安 斎 恵美子



今年の始まりを、皆さん覚えていらっしゃると思います。新年早々、スマホがけたたましく鳴って、全てのテレビ番組が能登半島の地震情報を伝える波乱の幕開け。東日本大震災を経験している私たちにとって、辛く、心が痛くなる光景でした。あたりまえが急に奪われてしまう災害。食べることに寝ること、住む家があること、家族と共に過ごせること、仕事、勉強がでること。今あるあたりまえを大切に

ていかなければならないと、改めて感じました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年より中止続きだった恒例イベントが再開され、観光地にも賑わいが戻ってきました。FJPも全ての事業が順調に進み、この嬉しさを皆さんと共有できたことが、さらなる喜びです。私がFJP会長に就任したのは、コロナの流行が始まって間もない2020年5月。私も周囲も、大いに変化があった4年間だったと思います。コロナ禍前の日常が戻ってきたとはいえ、人付き合い・コミュニケーション・働き方は大きく変わりました。私たちは、大きな危機を前に成長して今日を迎えられたと信じています。

- ◆ FJPの目的 ◆
- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

私も、会長として「お互いに認め合い、支え合い、絆を深めていくことを大切に、楽しく学べるFJP」になるよう微力ながら力を尽くして参りました。理事、会員の皆様には優しく見守って頂き、また、数々の失敗をフォローしていただいたこと大変有難く、感謝しております。自分の至らなさと皆様の温かさを感じた4年間でした。

失敗といえば、病院が舞台のテレビドラマで、主人公の外科医が口にする「私、失敗しないので」の一言を思い出しました。一度でいいから言ってみたいセリフですが、自分の身の丈を考えた、今回の経験を活かして活動に寄与していきたいと思えます。

最後に、FJPの良さを振り返ってみたいと思います。FJPには「会員に聞く」という例会があります。その方の生い立ち、仕事への姿勢、今後の夢や目標などお聞きできて、励みになり理想にもなる、とても素敵な企画だと思っています。FJPは、みなそれ

●うでまくりとは
古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気の良い朝にパラパラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない...という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから!

ぞれ個性的ですが、女性ならではの柔軟性と困難にもくじけない強さがあり、地域貢献への熱い意欲がみならず、それでいて宴会のノリは半端じゃなく、明るく元気で楽しい会員が勢揃い。私は「FJPの魅力は？」と聞かれたら、迷わず「会員一人一人です!」と断言します。これからも、ますます活気あるFJPにしていきましょう!



9月定例会講演者の川路ひとみさん(中央)と会員のみなさん

9月定例会(講演会)

— 2023年9月12日(火)

会場：日本料理舟津(郡山ビューホテルアネックス)

日本人だからこそ作れるシヨコラを…
— コロナ禍でも存続できた3つの理由

講師 (株)シヨコラティエ川路
代表取締役社長 川路 さとみ氏

9月定例会は、東京の若手女性経営者をお招きして講演会を開催しました。講師の川路さとみさんは、単身渡仏してパリのサロン・デュ・シヨコラのサンクタブレット(5つ星)獲得店で日本人初の従業員として2年間の修行をされました。帰国後、銀座和光チョコレートショップの勤務を経て2014年独立。本格チョコレートの販売やチョコレート教室を主宰しています。

2017年にはシヨコラティエ川路を東京都墨田区にオープン。それまでの道のりや女性が第一線で活躍していく事の苦悩などをユーモアをまじえながらお話し下さいました。

*『シヨコラティエ川路』が、コロナ禍でも存続できた3つの理由

① 川路さとみという特殊な商品を売っていた ② 神話の法則(ヒーローズ

ジャーニー)でファンクラブを作る。商品作成販売を物語風ストーリー化でのアピール。

② 従業員0人 ③ 固定費をかけない。24時間働く営業マンを育てる…デジタル、SNS。

③ 販売の他にチョコレート教室を開講。利益率90%の商品を作った ④ 教室でチョコレートフレーバーホイールから自分だけのお気に入りチョコレートが作れるという事は、この上ない喜びと贅沢感を味わえる。

川路さんは、起業家には「夢を描く」「ビジョンを作る」「物語を語る」「ミッションを遂行する」の4つの役割がある、とお話しされていました。私たちも、この4つを意識して仕事ができたらワクワクしますよね。そして最後に、プロとして真摯であること、お客様の不安や悩

川路さとみ氏



日本菓子専門学校洋菓子科卒業。東京ディズニーシーホテルミラコスタ勤務後に単身渡仏。パリのサロン・デュ・シヨコラのサンクタブレット(5つ星)獲得店で日本人初の従業員として2年間修業。帰国後、銀座和光チョコレートショップ、コンパルテスシヨコラティエを経て、2014年に独立。本格チョコレートの販売のほか、チョコレート教室を主宰。2017年日本人だからこそ作れる和シヨコラ「シヨコラティエ川路」をオープン。

みを解決すること、満たしたい欲を知ることが大切であると話しました。改めて経営の本質を学んだ気がしました。

チョコレートを試食や食べ比べもあり、日本画の様な美しいチョコレートを購入する機会も頂き、癒しと学びの有意義な時間となりました。



▲市松、穂、赤富士、浪など、日本画の素材を使った美しいチョコレート



シヨコラティエ川路

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋1丁目7-12
TEL: 03-6658-8480 FAX: 03-6658-8481
定休日: 水曜日・第3水曜日の次の木曜日
営業時間: 11:00~19:00



10月定例会(講演会)

— 2023年10月3日(火)

会場：ちゃんこ若葉山(福島市)

大相撲三兄弟力士の母として

国技文化で豊かな福島市を目指して

講師 ちゃんこ若葉山女将 大波 文子氏

10月定例会は、福島市の「ちゃんこ若葉山」を会場に、同店女将で元小結若葉山を父に持ち、大相撲で活躍中の若隆元、若元春、若隆景の大波三兄弟の母親でもある大波文子さんの子育てに対する想いや経験談を伺いました。美味しいちゃんこ鍋もいただきながら、会員同士の交流も深めました。

【講演要旨】

若隆元(長男 渡さん)、若元春(次男 港さん)、若隆景(三男 渥さん)それぞれについてお聞きしたところ、長男はやる気満々、次男はよくわからず、三男は長男のいうことは絶対という関係性で3人そろって相撲を始めた。

年子の3兄弟で、若隆景は負けず嫌いの性格で、いつもお兄ちゃんに勝てなくて悔しがっていた。3人とも福島市立吉井田小学校、信夫中学校を卒業し、学法福島高校相撲部に入部。上の二人

は高校卒業後すぐに荒汐部屋に入門したが、若隆景は東洋大学相撲部を経て荒汐部屋に入門した。

3人のしこ名は、毛利元就の「三本の矢」が由来。三人が揃ったところで荒汐部屋の親方がつけてくれた。毛利元就は広島ゆかりの偉人のため、広島の人たちも応援してくれているという。

若隆元は相撲が大好きでみんなのお兄ちゃんタイプ。面倒見がよく、荒汐部屋でも中心的存在。

若元春は、相撲はそれほど好きではないが成績は良かった。人と争うことが嫌いなタイプ。歌を歌ったり絵を描くのが好き。女の子のお父さん。

若隆景は令和4年3月大阪場所でも優勝したが、決勝戦までの待ち時間、優勝が決まった瞬間は今でも不思議な気持ちだった。

若元春の化粧まわしは、本人の希望で祖父若葉山と同じデザイン。化粧ま

わしを作る会社は全国に2社しかない。つくるのに2千万円以上はかかる。最新の化粧まわしは女将がデザインした。福島県を中央に配し、花見山に咲き誇る桜と桃の花びらが描かれている。

昨年の8月には、10年ぶりに荒汐部屋が夏合宿を福島市で実施。朝稽古には全国からファンが集まり、日曜日には800人が来てくれた。出身小学校を訪問し、子どもたちと一緒に給食を食べたり、相撲をして、相撲文化普及のための活動にも力を入れています。

これからも、地元ふくしまからのエールをお願いします！



◀若隆景のパネルの前で講演する大波文子さん

▼熱心に話を聞く会員の皆さん



● 福島県の自慢 二本松の提灯祭り



二本松の提灯祭りは、日本三大提灯祭りの一つに数えられており、祭り自体と祭礼囃子は、福島県重要無形民俗文化財に指定されています。

今から360年前、二本松城主となった丹羽光重公が「よい政治を行うには、領民にまず敬神の意を高揚させること」とし、二本松神社を祀り、領民なら誰でも参拝出来る様にしたのが提灯祭りの始まりだと言われています。

祭り当日は7台の太鼓台が若連のかげ声とお囃子を奏でながら市内を勇壮に練り歩きます。夜空を赤々と焦がして移動する3千もの提灯は見物客まで熱くします。文化を継承し、地域コミュニティを育む力のある祭りは地域の大切なイベントです。これからも福島県の素晴らしい伝統ある祭りが途絶えることなく、次世代まで続いてほしいと心から思います。(渡邊朋子)



▲夜空を赤々と焦がす提灯

移動例会

2023年11月8日(水)

(株)三義漆器店(会津若松市)

福島県会津若松市門田町で漆器と植物由来のプラスチック・ポリ乳酸樹脂製の器を製作している(株)三義漆器店さんに伺いました。最初に曾根佳弘社長からご講演をいただき、その後工場内を見学しました。〃伝統を止めない・新しい伝統を始める〃という信条のもとに交渉にあたり、小松技術士事務所と連携し成形技術を生かして製品(PLA)を開発されました。

地球環境を守るために二酸化炭素の排出削減に寄与する製品を作り、会津から世界へ発信したい。会社の成長と共に2030年を目標に6000トンの生産を目指しているとの事です。

製品はドバイ国際博覧会、日本館の記念品、国際女性会議の記念品、トヨタ自動車レクサスのパネル等にも採用さ



講演する曾根佳弘社長



工場見学後に参加者全員で記念撮影

れ、第6回ふくしま産業賞も受賞しています。互いに認め合う社風づくりをモットーに、さまざまな工夫・イベントを実施しています(社員の家族も巻き込んで)。〃人の質が品質、人格が会社〃という曾根社長。女性の責任者は3割いるとのことでした。

工場見学は何班かに分かれて生産工程の説明等していただきました。クリーンルームにも入れて頂きました。

社員さんも率先して説明して下さい、皆さんからご挨拶を頂くなど社風が伝わる心地よさと活気を感じました。

曾根社長をはじめ社員の皆様に感謝すると共に世界に誇れる福島を発信し続けてほしいと願うばかりです。

快く私達を迎えて下さったことに心より感謝申し上げます。

会員交流会

2023年12月10日(日)〜11日(月)

— 岳温泉 マウント・イン

12月定例会は、元会員の鈴木美砂子さんがオーナーをつとめる「マウント・イン」(岳温泉)に於いて、1泊2日の日程で実施されました。

定例会にて各委員会報告、会計報告、1月から3月までの活動予定を確認して終了。交流会は、佐藤直美会員の司会、紺野涼監事の乾杯の音頭でスタート。食事も美味し

くこの時点でかなりの盛り上がり。シェアルームに場所を移して2次会スタート。差し入れの美味しいお酒とつまみで、皆さん女性経営者ならではの腹を割った話がはずみます。

待ちに待ったビンゴ大会は、長沢委員長が番号読み上げ進行するも、最初のビンゴは長



沢委員長となり、早くも盛り上がりを見せました。「今の数字何だった？」の声に、途中3度の数字の復唱…何はともあれ無事終了。

最後は恒例の会長賞などをかけたじゃんけん大会。直前会長賞は会田会員。会長賞は3人の〃佐藤さん〃による決戦を制して佐藤和江会員がゲット！大盛り上がりのうちに、4年ぶりの忘年会はお開きとなりました。

その後もお泊まり組を中心に、美味しいお酒と気持の良い温泉で交流を深めた夜でした。

2024年1月定例会

日時：2024年1月10日(水)
会場：ネーブルシティもとみやオーヴ

新春トークショー「大山社長をお迎えして」

ゲスト：大山 三起雄氏（株式会社ケイビ代表取締役）
聞き手：菊池 美保子（総務委員会委員長）

新年最初の1月定例会は、(株)ケイビの代表取締役大山三起雄さんをお招きして、起業のきっかけや経営者としての歩みについて伺いました。変化する時代の中で何度も大きな壁を乗り越えてきた大山社長の話には、会員の皆様も興味深く熱心に聞き入っていました。

■まずは自己紹介をお願いします。

12月24日生まれの75歳。幼少期は人を楽しませることが大好きな子どもだった。大学卒業後に会社員になったが、サラリーマンは自分には合わなかった。片道切符でハワイに行ったら、帰りのチケットがなく、ハワイの日系人にお世話になって1か月ほど滞在した。何度もハワイに行っていたが、お金がなくて苦労したその時の思い出が一番心に残っている。

■事業を始めたきっかけは？

空調設備の事業を始めたが、儲からなかった。そんな中、池袋の西武で日曜大工の展示販売会を行ったとき、防

触テープという商品に感銘を受けてその商品をお店に売った。その後、持ち帰りずしの小銭寿司チェーンのCMを見て東京のお店に飛び込みで入りお寿司を食べべたらとても美味しかったので、直接社長に交渉してフランチャイズとして寿司屋を始めた。20代後半から30代半ばまで必死に働き、3年間で50店舗を



大山三起雄社長(左)と
菊池総務委員長

展開するまでになった。その後、マンションやビルに投資したが、バブル崩壊で膨大な借金が残った。必死でやっても何もかもうまくいかない時代。銀行からは返済を迫られ、10年間はずつと我慢の時代だった。

■警備会社を始めたきっかけは？

友人から突然、警備の仕事があることを教えてもらい、ピンときた。当時、身だしなみもなく、たばこを吸いながら交通誘導している警備員を見て、ビジネスチャンスを感じ、すぐに決断し警備業をスタートした。FJP会員のマインドさんにもお世話になった。

■デヴィ夫人との出会いは？

顧問として航空幕僚長の田母神俊雄が都知事選に出馬したときにデヴィ夫人が応援してくれたので紹介してもらった。まだ知り合って7年くらいだが、30年くらい前から知っていたかのように仲良きさせてもらっている。いろいろな経験をされている方で、頭が良くとても強い女性だと思う。

■現在の警備業、目標は500人と聞いたが、人材不足のなか今後どのように考えていますか。

私のアイデアで、入社プレゼントとして3年くらいに分けて30万円を渡している。一昨年までは20万円をやっ

ていたが、30万円に上げたことで多くの人が応募してくれるようになった。若い人よりも50代以上の男性、女性が多い。資格取得も会社として応援している。

■防犯に特化した商事部門は息子さんが立ち上げたそうですが、息子さんが地元に戻ってきたきっかけは？

息子は大手商社でタイに8年滞在した。次のメキシコ駐在が決まったときに、後継の話を持ち掛け、本人も決断してくれた。株式の譲渡や事業承継も検討している。

■女性経営者に対しては、どのように感じていますか？

これからは女性の時代。女性の方が辛抱強く優秀。一方で男性は子供っぽい印象。責任感が強く、仕事もしっかりやるのは女性。これからの日本は女性が主導権を握るべきだと思う。

■女性経営者に求めることは？

自分がいとも心掛けているのは、辛抱と我慢。様々なことがあると思うが、流れが変わる時が来ることを信じ、じっくりと腰を据えて我慢をするときは我慢すべき。会社の総務の責任者や支店長は女性だが、しっかりしている。今後、女性がますます能力を発揮してくれると期待している。

オンライン2月定例会

— 会員に聞く —

2023年2月13日(火)
配信: co-da KORIYAMA

渡邊 薫会員
山ノ井友美子会員
聞き手: 安 斎恵美子会長

渡邊薫会員は兵庫県の生まれ。お父様が転勤族で全国を転々としたので農業と商店に憧れたとのこと。サラリーマン時代は仕事の関係でロンドンに在住。夫が家業を継ぐのを機に子供も学齢期なので本宮に落ち着いた。

事業は資源のリサイクルで県内各工場との取引がある。資源物は分別の上精錬会社・メーカーに納入する。ご主人は税理士事務所を経営。

慣れるまで商売は大変だと思っていた。男性スタッフが多いのでコミュニケーションをとるのが大変。自分の役割は家族経営で時代によつて違うので、その中で皆の橋渡しをしていくことだと思っている。今後は、次世代に安定して事業を渡せるようにしていきたい。

これからの創業者の理念を大切に、従業員の良さを引き出し、時代とお客の変化に対応していきたい。

山ノ井友美子会員は、はじめセブン

イレブんに勤務し接客・レジ等を行っていた。この経験があり現場の感覚を得ることができた。その後、本社に経理担当として入社。震災で店舗が流されテナントとして入店していたので大変だった。新潟県に3年間避難した時は、子供と向き合える時間を過ごす事ができた。その後仕事に復帰。

コロナ禍では風評被害の影響が大きかった。一社員では社内で見えが通らないと思つて役員に就任した。

会社は小売り・卸・花輪事業を展開している。現在の社長は7代目。付加価値をつけるために、現在加工場を建設中である。フグの取扱・販売資格などを会社で取得した。今後は環境の変化に対応していけるようにしたい。

人材不足・労働時間の制限等に対応する業務の効率化、デジタル化も進めている。か全国どこからでも欲しいものが買える専用アプリなども利用している。



左から安斎会長、渡辺会員、山ノ井会員

3月定例会

— まとめ例会 —

2024年3月13日(水)
郡山ビューホテルアネックス舟津

3月定例会は、まとめ例会として郡山市の郡山ビューホテルアネックス舟津で開催しました。総務、事業、交流広報の各委員会ごとに1年間の活動を振り返り、次年度に取り組みたい事業の提案やアイデアなど積極的な意見交換が行われました。

▼総務委員会: 出欠確認も含めLINEの活用とペーパーレス化を進める。次年度は利益の出る事業を行いたい。

▼事業委員会: 経営者同士の交流や地元先輩経営者の話を聞いてみたい。30周年事業として、海外視察はどうか。

▼交流広報委員会: 「うでまくり」をリニューアルして編集の負担を減らしたい。会員の近況報告をリレー形式で掲載したい。プレスリリースを積極的に行う。FJPのホームページのQRコードを掲載した名刺サイズのカードを配り、会員拡大を目指す。



総務委員会



事業委員会



交流・広報委員会

23年度テーマ
「学び合い」FJPもステップアップ
エネルギーの源は「笑顔」

最後に安斎会長から、時代に沿った運営をし、楽しい事業を行っていきましょう...という旨の話があり、盛会のうち2023年度最後の定例会を終りました。

新会員ご紹介

株式会社 小坂橋工業所
取締役総務部長 小坂橋千晴さん
(交流・広報委員会)



弊社は、都市ガスや水道事業の配管工事を請負う建設会社で、今年で設立58年

を迎えました。地域の皆様のお役に立てるよう長年培ってきた技術力を継承し、また時代の変化とともにお客様の求める価値に対応出来る会社を目指しています。

私と主人が結婚を決め両親に紹介した直後に東日本大震災が起きました。婚姻前ひとり暮らしで心細い私を、当時社長だった夫の母が家に招いてくれたことが、仕事の現状を知る大きなきっかけとなりました。

震災直後からの一週間、夫や社員は寝る間を惜しんで地域の復旧工事にあたっていました。私の中で家族とともに会社を支えたいと思い入社を志願しました。管理職の経験も少ないまま経営者の立場になったことで迷い悩んだ時は、先に経営者として躍進していた友人に相談できたことが救いでした。

今回、その友人の紹介で、昨年12月にFJJPに入会いたしました。諸先輩方より経営者としての立ち振る舞いなどを学びたいと思っております。よろしくお願い致します。

郡中丸木(株)グループ
株式会社 UZU設計

取締役 石川たか子さん
(事業委員会)



私は、建築設計事務所を営んでいる主人のサポートをしております。

主人が定年後に起業したため、設計事務所としては歴史も浅く前職からのつながりです。一般住宅設計・管理の仕事を始め、以前からのお客様の引き立てにより働きの場をいただいております。

主人が形あるものを描く仕事をさせていたがながら、私は形の無いものを描く仕事として「時間の法則・暦の読み解き」を生業としております。自分の人生道標として始まった趣味事でしたが、いつしか仕事になりまして、それが人生のナビゲートを自分で出来るようになった。現在は地元での講座の他に、関西での開講もあり行き来をするよう

FJPゴルフ『シンきらめき会』 会員募集!

FJPのゴルフ愛好家たちで活動している『シンきらめき会』(新たにシンが付きました!)は、現役会員だけでなく、OG会員もたくさん在籍している歴史ある会です。

ゴルフをはじめたばかりの方も大歓迎でゴルフ場でのマナーや技術も教えていただけますので、安心して参加してください。

毎月、福島県内各地のゴルフ場でプレーしていますが、本年度は県外への遠征も予定しています。

これからゴルフをはじめたい皆さまも是非一緒に楽しみましょう。

皆様のご入会を心からお待ちしております!



新入会員募集中!!

FJPは、
会って 語って 学んで
ホットな交流のひろばです



■お問い合わせは事務局まで
☎ 080-2671-8966
<http://fjp-net.com>

になりました。とはいえ、まだまだ駆け出しの状況の私です、FJPの会員の皆様の前向きなお考えがとても魅力的でとても良い刺激になると感じております。このご縁に感謝し、これから多くの事を学ばせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

福島県の伝統と文化

福島県を代表する伝統工芸品の一つに、今や全国にその名が知られる『赤べこ』があります。4百年ほど前、子ども達を疫病から守るために当時の会津藩主蒲生氏郷が作らせたと言われていますが、今でも厄除けの守りとして重宝されています。首がゆらゆらと動くところが人気で、最近では黒べこや金べこなどもあるようです。



各委員会 活動報告



◆総務委員会

総務委員長 菊池 美保子

3月1日(金)に二本松市の「フラジャイル」で安齋会長にもご出席いただいた恒例・夜の総務委員会を実施しました。協議内容は、第29回定時総会に向けての決算書作成と監査方法、予算案の作成、総会資料の準備、受付、司会などの役割分担について話し合いをし、加えて次年度の総務委員会の新体制と新たな出欠確認の提案、事業内容の検討など活発な意見が出され、次年度への意気込みが感じられました。



総務委員会



会議終了後は、食べきれないほどの美味しいお料理と楽しいお喋り：日頃の忙しさを少しでも忘れられました。

総務委員一丸となつて定時総会の準備を進めます。スムーズな運営に委員の皆さまのご協力を何卒よろしくお願いたします。

◆事業委員会

事業委員長 会田 和子

第2回事業委員会は昨年12月18日に郡山市日和田町の澤上邸で開催(11名参加)。山小屋づくりの素敵なお別荘で、おもてなし感たつぷりのテーブルセッティング。手土産持参で駆けつけてくれた安齋会長はじめ皆さんの笑顔が光る。仲間がいることの素晴らしさを再確認しました。後半期の定例会を



事業委員会



成功させよう！健康に生きるを考慮しよう！また集まろう！など、会話弾む会合になりました。心から感謝して…。

◆交流・広報委員会

交流・広報委員長 長沢 美起子

今年度は、交流広報委員会の担当例会等、委員の皆様にはご協力ありがとうございました。各委員の方々に頑張っていたいただき、とても良い運営が出来ましたことを感謝申し上げます。交流広報委員会は3月19日郡山市の燦さんで今年度最後の委員会を行いました。うでまくりの発行並びに来年度の体制などの打ち合わせを行い、そのあと懇親会を行いました。来年度に向けて委員の拡大、宜しくお願致します。



交流・広報委員会

編集後記

春になり、花々が美しい季節の到来です。コロナ禍も過ぎ、久々に晴れやかな気持ちでお花見が出来るようになりましたが、反面、1月に発生した能登半島沖地震で被災された方々を思うと心が痛みます。13年前の東日本大震災を思い出された方も多かったのではないのでしょうか。まだ、私達も復興半ばですが、歩みを止めず進んで行きたいものです。災害の多い昨今ですが、地球温暖化への取り組みなど、私達も何が出来るかを常に考えていく必要があるのではないのでしょうか。被災された方々にお見舞いと早期の復興を願います。編集後記と致します。(長沢)



我が家のアイドル!

ミーちゃん 福ちゃん